

えんど久子県議住民らと共に

日出生台での米軍演習

防衛省に抗議

訓練が大きく変質

5月23日、田村貴昭衆議院議員が同席し、つつみ栄三県議や住民とともにオンラインで防衛省に抗議しました。防衛省は国民の安全安心を確保する立場に立つよう求めました。大分県の日出生台演習場で4月16日から25日にかけて、15回目となる沖縄県道104号線移転砲撃訓練が実施されました。

今回の訓練は、はじめて冬季以外の実施となり、放牧や大型連休の時期になるため、地元住民はじめ観光業など多くの関係者からも「なぜこの時期に」という疑問と怒りの声が出されています。過去最大規模の訓練でもあり、「負担軽減を」との地元の願いを踏みにじるやり方に怒りを禁じえません。これまで行われてきた情報公開についても大幅に後退し、小火器や白リン弾だけでなく、あらたに高機動ロケット砲システム（ハイマース）やドローン等を持ち込むなど訓練が大きく変質しています。

地元との約束を無視

地元自治体との間で取り交わされた「協定」「確認書」等については「地域での合意は国家政府の合意ではない」として無視されていることも重大です。

地元自治体や住民は一貫して訓練の将来にわたる縮小・廃止を求めており、今回の訓練は不安と不信を広げています。

米兵が個々自由に外出

オンラインで対応した防衛省は「これからも可能な限り情報開示に努めていく」としながらも「米軍の行動予定を事前に公開することは米軍の安全に関わる」「今回の外出で九州防衛局が巡回した。事件事故の報告は受けていない」などと回答。

住民は「これまでとはまってバスで外出し演習場に帰っていたが、今回は個々バラバラにタクシーなどで外出し、時間も自由だったのはなぜか」と質問。「なぜかというのは答えられない。警察や自治体に連絡している」と防衛省。

住民の安全は考えていない

と怒りの声

「別府では九州防衛局や警察や自治体職員らしき人は見かけなかった。事件事故があつたかどうか把握できていないのでは」と言う、えんど久子県議や「米軍の安全確保とは具体的には？」「過去の外出でトラブルをこの目で見た」と言う住民に対し、「外出のやり方は米側の意向で…」など言う防衛省に「質問に答えていない」「住民のことは全く見ていない」と怒りの声が上がりました。



日本共産党 県政ニュース

発行 日本共産党大分県議団
大分県議会議員 えんど久子

TEL・FAX 097-537-2344

No.59

2022.6.1.

日本共産党えんど久子県議 住民らと共に

地元への情報公開などを要望

2022年5月23日

防衛大臣 岸 信 夫 様

日出生台での米軍演習に反対する
大分県各界連絡会
日出生台演習場の地元住民有志

沖縄県道104号線移転砲撃訓練について

申し入れ事項

1. 前回まで事前公表されていた米海兵隊員の入県・離県の日時、砲門・車両等の陸揚げ日時について、今回公表しなかった理由は。特に砲弾の陸揚げ・搬送は公道を使用するので事前に知らせておくことが危険の回避に必要なので公開すべきである。今後は必ず地元住民・関係者に事前に公表することを求める。またブリーフィング・公開訓練等は地元住民・関係者への情報公開として、最優先で実施すること。
2. コロナ禍で、米海兵隊員を繁華街等へ自由に外出させた理由、また防衛局員が米兵に同行しなかった理由について。今後は感染症拡大や飲酒によるトラブルなども懸念される外出は中止すること。
3. ハイマースは今後も沖縄県道104号線移転砲撃訓練に使用するのか。155ミリ榴弾砲の実弾射撃を支援するため、射撃管制通信システムとして使用とあるが、155ミリ榴弾砲に関連させればどんな兵器でも使用することになるのではないか。今後は、ハイマースやドローンなど新たな兵器の使用はしないよう求める。
4. 米軍のホームページ等では訓練で使用した兵器や砲弾などの画像や文が公開されている。これらも含め、訓練の状況や使用した兵器・砲弾・弾数等の情報を防衛省としても地元住民へ伝わるように公開するべきである。また国際的に批判のある白リン弾等の砲弾使用は中止すること。

各界連絡会や地元住民有志は
次の4点について申し入れしました



防衛省・田村貴昭衆議院議員・地元住民をオンラインで繋いで要望し話し合いました。

お困りのことなどありましたらお気軽に日本共産党へ。TEL 097-537-2344 (平日9~17時)